

遺跡はどこに？ ～雪解けの景色に探る～

考古学で言う遺跡とは、主に何百年、何千年前の人々が生活した場所のことを言います。普通は長い年月の間に土に埋もれて見えなくなることも多いですが、崖の断面や畑の表面に土器のかげらや石器が顔を出して、遺跡の存在を知ることができるようになります。

また、竪穴住居跡の穴が埋まりきらずにくぼみとなって、地表面で目視できる場合もあります。実際、石狩市内でも、花川（紅葉山砂丘）、石狩川河口右岸の八幡付近、厚田区の一部では林の中などにくぼみが見られ、発掘調査で擦文文化（7～13世紀頃）の住居跡と分かった例がありました（写真①②）。

最近では、このようなくぼみを身近に見かけることはあまりなくなってきましたが、道内では、竪穴のくぼみが群をなして残っているところもあります。特にオホーツク海に面する北海道東部では、今もなお数多くの竪穴住居跡のくぼみを地表面から確認することができ、貴重な文化遺産として注目されています（写真③）。

3月～4月は遺跡の手がかりを探るのに良い季節を迎えます。なぜなら、草木や葉が茂つておらず、地形

をよく見渡すことができるからです。雪解けの時期は、くぼみにだけ残雪が見られ、日当たりによって新緑の色彩が異なるため地形の起伏が見つけやすくなります。この時期に地形を観察することで、竪穴跡や旧道の痕跡などの手がかりを得られる可能性があるのです。

（荒山千恵）



写真① 石狩市若生（わかおい）C遺跡 竪穴住居跡の発掘風景（1970年代）
表土のはぎ取りをしている途中ですが、地表面がくぼんでいることが分かります。



写真③ 湧別町シブノツナイ竪穴住居群（写真：湧別町教育委員会 2020/4/1撮影）
草原に530基のくぼみが広がり、残雪で竪穴の位置や形がよく分かります。



写真② 若生C遺跡の調査で出土した擦文土器

石狩市学芸員
荒山千恵 Chie Arayama

専門分野は考古学。遺跡の発掘調査をはじめ、出土した木の道具、音の考古学などの研究を行う。

国文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館